

私立大学へ転職して6年の歳月が経ちました。ここで、“転職”という表現にしたのは、研究中心から教育中心の生活になるであろうという甘い考えは当てはまらなかったからです。学生生活の相談、リメディアル教育、キャリア教育、教職課程教育、就職指導、公開講座、高校訪問、広報、入試、人事…などと、マルチタレントを要求される仕事内容に驚かされています。このような多忙極まる環境の中で研究成果を生み出している教員の方々には脱帽するとともに、私生活の時間を研究に注ぎ込んでいる方々も多いのではないかと想像します。このような状況下でも、私が研究を続けるモチベーションを維持しながら少しずつでも進展させられているのは、共同研究者の方々のお陰であり、大変感謝しております。細切れになった研究（自由）時間を調整して、研究会を企画して頂いたり、インターネットを通じて議論して頂いたりできるのは非常にありがたいと思っています。最近、内容こそ異なれこのような「忙しい症候群」は社会の至る所で見られます。本務である教育研究を超えて教員にサービス、営業、経営の精神を求めるのは、理念を見失い、効率を考えない“頑張り頑張り精神”が根底にあるのかもしれませんが。ちょっと、言い過ぎた感も否めませんが、ゆっくりと考えられる時間が再び訪れるのは退職後なのかもしれないなどと思いながら、「忍スタイル」の研究を続けたいと思います。最後に、大学院・助手の頃の自由で闊達な研究環境を苦心して作って下さった先生方に改めて感謝の意を表して編集後記としたいと思います。

T.Y.